

後拾遺和歌集作者ノート(2) 山之内恵子

本稿は、後拾遺和歌集の基礎的研究の一環である。特に内閣文庫蔵『勅撰作者部類』(二〇〇・一五七、二〇〇・一五八)・彰考館文庫蔵『後拾遺和歌集』勅物等の注記を翻刻し、かつ刊本『和歌色葉』の作者注記を並記して、『後拾遺』作者伝の考察に一資料を提供しようとするものである。

本稿は、拙稿『後拾遺和歌集作者ノート(1)』(『立正女子大学短期大学部研究紀要』第13集・昭44・12)にただちにつづく。すなわち前稿(アーカ行)に対して本稿は(コ・サシ)である。スペースの都合で以下の稿も用意しながらややむなく割愛したが、今後引き続き発表していく予定である。なお、この場所をかりて、貴重な資料の利用をさせていたたいは内閣文庫・彰考館文庫に対して厚く御礼を申し上げます。

凡 例

一、配列は全て人名で掲出し、漢字一字毎に音よみで、現代かなづかいによる五十音順とした。

二、作者名の下に、括弧で姓、及び集における官職表記を入れ、次いで生没年、入集歌集、『国歌大観』番号による入集歌番号の順に記した。

三、本文で使用した資料の略号は次のとおりである。

〔作〕……勅撰作者部類

〔彰〕……彰考館本後拾遺和歌集勅物

〔色〕……和歌色葉

〔二〕……二中歴

〔尊〕……尊卑分脈

〔僧〕……僧綱補任

〔仙〕……三十六人歌仙伝

〔中仙〕……中古歌仙三十六人伝

〔広〕……広島大学本後拾遺集勅物

五、旧字体は原則として新字体に統一した。原文はなるべく底本のままとすることを原則とし、私意の入ることをさけた。従って、異体字、誤字もそのままとしたが、活字の都合で「才」は「権」に「イ」は従に改めた。

六、『作者部類』はまず標目を掲げ、次に頭注を①とし、傍注を②とし、脚注を③として記した。また人名にふりがなのあるときはそのむねを記した。

七、彰考館本の勅物のみ行の変り目に「し」を入れ、また私に読点を打って読解の便とした。

〔一〕

公円法師母(藤原) 一首(71)

〔作〕女房。③二条関白女、母小式部内

〔注〕〔尊〕公円条「母関白教通公女」と

あり。二条関白教通女。藤定頼男経家の妻。

公経(藤原) 承安元1171、一首(115)

〔作〕四位。①藤實宗 ②参議資房 ③宮内少輔成尹男、至承徳三年

〔彰〕主殿頭、従四下、宮内大輔成平男

〔注〕〔陽〕に「主殿頭従四位下、宮内少輔五位下成尹男 母前伊勢守従四下源元忠女」。生没未詳。長久三年正月任期解由判官、本朝世紀康和六年七月廿三日条、とあることより二十一才で勘解由判官と仮定すると没年は七八才か平安朝歌、合大成五

公資(大江) 長久元1040卒 三首(195, 207, 209)

〔作〕四位。②兵部権大輔 ③長久元十一

七卒、薩摩守清言男、大隅守仲宣子一孫

〔彰〕兵部権大輔、従四下前薩摩守、道言男、仲言養子

〔注〕〔尊〕大江「薩摩守従五下大江清言男。遠江守兵部権大輔従四下」。

公実(藤原) 天喜元1053、二首(31, 249)

〔作〕大納言。②権、春大夫 ③大納言実季男

〔彰〕参議権大納言「実季男

〔色〕春宮大夫藤原公実卿、実孝卿息

〔注〕〔陽〕(左近衛中将公実)「大納言

実季一男、母大式経平女。〔色〕の実孝卿息は実季の誤か「尊」公季。公孫流。

公信(藤原) 一首(95)

〔作〕中納言。③恒徳公男

〔注〕〔尊〕「太政大臣従一位恒徳公(為光)男。権中納言」。

公成(藤原) 長保1999、一首(622)

〔作〕中納言。②中納言実成男

〔注〕〔尊〕「中納言実成男、権中納言号滋野井」。

公任(藤原) 康保三966、十九首(52, 56, 257, 269, 377, 417, 434, 497, 501, 628, 983, 1033, 1036, 1072, 1114, 1115, 1191, 1198)

〔作〕大納言。②前、按察 ③廉議公男

〔彰〕三条太政大臣男、号「四条大納言也

〔色〕四条大納言藤原公任卿、三条関白廉義公御息、母代明親王御女(号四条大納言)。

〔注〕〔陽〕「前大納言公任」按察使、号

四条大納言、太政大臣頼忠一男、母四品中務卿代明親王女。〔中山〕清慎公孫廉公男、母中務卿代明親王女。〔尊〕「頼忠男、権大納言、号

四条」。拾遺抄採者。

光源法師 一首(118)

〔作〕凡僧。②山 ③長元之比人

〔注〕〔尊〕貞嗣卿に「長兼卿為子、法印権大僧都長惠息。権少僧都。」とあり。

光成(源) 一首(487)

〔作〕六位。②中務丞 ③越後守致忠男

〔彰〕後朱雀院春宮之時、中務丞越前守致忠男

〔注〕〔尊〕文徳源氏に「従四下越前守致文男東宮藏人掃了助」とある。妹(?)に「後朱雀院梅壺女御御乳母、後拾遺作者号上総乳母(成国光子)」がいる。

光朝法師母(橘) 二首(272)

〔作〕庶女。③因幡守橘行平女

〔彰〕前因幡守橘行平女、陸奥守源則光妻也

〔色〕前因幡守橘行平女、陸奥守橘則光妻

〔注〕〔広〕に「前因幡守橘行平一女、陸奥守則光朝臣妻」と見え、〔陽〕では「前因幡守正五位下橘行平一女陸奥守則光朝臣妻」とある。

好忠(曾根) 九首(42, 169, 204, 220, 227, 273, 421, 775, 873)

〔作〕六位。②丹後様

〔彰〕俗伝丹後様、仍「号曾丹、但任日不見

〔色〕丹後様曾根好忠、花山、寛和比人

〔注〕〔広〕「号曾丹、寛和比人、〔太〕

「曾根好忠、称曾丹」、〔陽〕「俗伝

丹後椽、寛和比人任日無所見依称丹後椽号曾丹。〔中仙〕「後拾遺集目錄云俗伝丹後椽寛和比人、任日不見丹後椽号曾丹、清輔朝臣抄云始者号曾丹。貞元から永延の人。」

江侍徒〔藤原〕 六首〔292 460 588 842 874 5〕

〔作〕庶女。③大江匡衡女、母赤染衛門

〔彰〕匡衡女、母赤染、左大臣「俊房公乳母

〔色〕式部大輔大江匡衡女、母赤染右衛門

〔注〕〔尊〕「大江匡衡女。号江侍徒。母赤染衛門。兄に孝周がいる。侍徒乳母と同一人説あり。生没未詳。」

行成〔藤原〕 天禄三972、一首〔542〕
万寿四1027

〔作〕大納言。②権、侍徒 ③少将義孝男

〔彰〕号侍徒、大納言義孝「少将男

〔注〕〔尊〕に「藤義孝男。正二位権大納言。母中納言源保光女。万寿四十年十一月四日薨 五十六。世号権大納言。一条院御幸四納言内。才人。本朝入宋相承之太祖。能筆。本朝祖三跡内。号権跡是也。」とある。

孝善〔藤原〕 五首〔77 387 422 1078 5 1095〕

〔作〕五位。②右衛門尉従五下 ③長門守貞孝男、至寛治二年

〔彰〕右衛門尉前長門貞孝「二男、」母実

政家女房

〔色〕右衛門尉藤原孝善、前長門〔守〕貞孝息

〔注〕〔広〕「右衛門少尉、前長門守従五下貞孝二男。〔陽〕「右衛門小尉前長門守従五位下貞孝二男、母近江守実経家女房。〔尊〕魚名「右衛門尉貞孝男。兄に民部丞孝範がいる。生没未詳。寛治二10至るか。88至るか。」

後三条院〔諱尊仁〕 長元五1032、三首
延久五1073

〔作〕帝王。②諱尊王 ③同後冷泉男

〔色〕後朱雀院御子、母后陽明門院後

後朱雀院〔諱敦良〕 寛弘六1009、三首〔604〕
寛徳二1045

〔作〕帝王。②諱敦良ナカ ③一条男

〔色〕一条院御子、母后〔御堂関白殿下御女〕上東門院〔彰子〕

後冷泉院〔諱親仁〕 万寿二1025、三首
治暦四1068

〔作〕帝王。②諱親仁 ③後朱雀男

皇太后宮美作〔源〕 二首〔79 183〕

〔作〕庶女。③美作守源資定女

〔彰〕美作守源資真女、母齊院出羽弁

〔色〕前美作守源資宗女、母出羽弁

〔注〕〔広〕「前美濃守従四上源資定朝臣

女、〔陽〕「美作守従四位上源資定朝臣女、母齊院出羽弁、季信三女。右大将道綱女、大江清通妻、後一条院乳母の美作三位とは異人物。〔広〕

の「美濃守」が「美作守」の誤でなく、美作守の閨歴がないなら、美作は他因縁により、女房名を得たものと考えねばならない。平安朝歌皇太后宮は後冷泉皇后寛子。

皇太后宮陸奥〔藤原〕 二首〔78 1207〕

〔作〕庶女。③陸奥守朝光女

〔色〕陸奥守藤原朝臣女

〔注〕〔色〕の「藤原朝臣女」は朝光女の誤か。

高遠〔藤原〕 天曆三949、八首〔138 215 250 521〕
長和二1013

〔作〕散二三位。②三位、二位 ③従三位

〔彰〕前大式、小野宮殿孫、〔齊敏卿男〕

〔色〕高遠大式、田融花山 参議従三位齊敏卿息

〔注〕〔尊〕「藤原齊敏男。正三位前大率大式。母播磨守伊文女。小野宮実頼の兄。長和二五十一薨六十五。〔中仙〕「清慎公孫、参議左衛門督齊敏男、母播磨守平伊文女。一条帝の

笛師『枕草子』
二百三十段。

高内侍(高階) 一二首(7097)

〔作〕女房。②号高内侍 ③從三位高階成忠女

〔注〕〔尊〕「從二位式部大輔成忠女、一条皇后定子之姉」。

康資王母(高階) 九首(525 581 728 728 1089 1135 1188 1195)

〔作〕女房。③筑前守成順女仍始、号筑前母伊勢大輔、大皇太后宮女房

〔彰〕大皇太后宮女房、前筑前守成順女(色) 伯母、康資王母云々。筑前母同父一腹。大皇太后宮女房

〔注〕清仁親王男の神祇伯源延信妻となり神祇伯康資王を儲ける。伯母、四条宮筑前とも稱す。妹に筑前乳母あり。

〔尊〕「高階成順女、大皇太后宮女房康資王母、歌人後拾己下作者」。

広経(大江) 一首(516)

〔作〕四位。②前伊賀守 ③遠江守公資男 至寛治三年

〔彰〕前伊勢守、從四上、公資朝臣男

〔注〕〔尊〕「公資男。伊勢守從五下 後拾遺作者。生没未詳。寛治三 一八〇 一八九 に至るか。

国基(津守) 治安三11023、 三首(71498)

康和四1102

〔作〕五位。②住吉神主 ③從五下忠康男 延文元年叙爵

〔彰〕住吉神主從五下、散位基康男

(色) 住吉神主国基、神主津守基辰息

〔注〕〔太〕「津守国基、住吉神主」。(陽)

「住吉神主從五位下、散位從五位下 基辰男、母神主頼信女」。歌道津守家の家風の開始者。後拾遺撰進時、撰者通俊許に小簾を贈り、入集を請うた『後拾遺』序文。

国行(藤原) 五首(206 406 527 976)

〔作〕五位。②内匠頭 ③内匠頭有親男 至永保六年不審

〔彰〕右衛門府生、竹田種理、諸陵頭從五上、為養子、内匠頭有親男、仍号竹田大夫

〔注〕〔尊〕南家真「内匠頭有親男。從五上諸陵頭。世号笛大夫」とある(彰)の「竹田大夫」は「笛大夫」か。

〔作〕五位。②石見守 ③玄番頭範光男、至永保四七

〔彰〕石見守、從五下、玄番頭「範光男(色) 石見守国房、玄番頭範光息

国房(藤原) 五首(406 660 772 782 1039)

〔作〕五位。②石見守 ③玄番頭範光男、至永保四七

〔彰〕石見守、從五下、玄番頭「範光男(色) 石見守国房、玄番頭範光息

〔注〕〔尊〕推孝「玄番頭範光男、從五下

石見守」。生没未詳。永保四一八四存

生か。

(色)

左大臣→俊房「し」

左衛門→加賀左衛門「か」

左衛門督北方→俊房室「し」

左近→小大君「し」

佐経(大江) 一首(339)

〔作〕五位。②左衛門尉從五下 ③壹岐守 大江為国男、豊前守伴為国三男、至康平

〔彰〕散位從五下檢備遣使大夫、前豊前守伴為国男

〔作〕庶女。大齊院中將 ③齊院長官為理女、母大江雅親女

齊院中將(源) 一首(352)

〔作〕庶女。大齊院中將 ③齊院長官為理女、母大江雅親女

(色) 越前守大江雅致女、選子内親王女房

〔注〕〔尊〕源氏「從五下。齊院長官為理女。選子内親王女房。号齊院中將。

母大江雅致女。〔作〕の「雅親女」は「雅致女」の誤か。妹に齊院中務

がいる。

齊院中務(源) 二首(339 351)

〔作〕庶女。③父母同上(齊院中將と父母同)

〔彰〕大齊院女房、母同中將、齊院長官

源為理女

〔色〕齊院長官源為理女、同(選子)内親王女房

〔注〕親が「齊院の人」、中務は寛仁元一七〇には「内侍のすけ」であった大齊院。

〔紫式部日記〕。母姉に齊院中将がいる月旦の条を大江雅致女とするのを疑う向きもあり。

齊宮女御(徽子内親王) 延喜七929、七首 寛和元985

〔作〕女御。②徽子女王 ③民部卿重明親王女、天曆女御母貞信公女

〔彰〕天曆女御徽子、重明親王女、異言重明親王、母貞信公女

〔色〕式部卿重明親王御女、(母小一条関白貞信公御女) 天曆帝女御

〔注〕〔歌仙〕「三品式部卿重明親王女、母貞信公二女」。承平六九三 九月八才で齊宮に卜定。天慶元九三 九月伊勢に下る。寛子没後、天曆二九四村上天皇のもとに入内。没年にかんして疑う向きあり。

齊信(藤原) 康保四967、一首(113) 長氏八1035

〔作〕大納言。③恒徳公男

〔彰〕大納言。法住寺大臣、為光三男

〔注〕〔尊〕為光公「太政大臣為光男、正

二位権大納言。兄に道信がいる」。三三条(諱居貞) 貞元976、三首(861) 1034 寛仁元1017

〔作〕帝王。③諱居貞、冷泉男

〔色〕冷泉院御子、母后同関白御女(超子)

三條小左近(藤原) 一首(321)

〔作〕庶女。③重クウニ、贈従三位祇子女房

〔彰〕贈従三位藤祇子家女房、治部祿茨田重頼女、童名児

山田中務(藤原) 一首(548)

〔作〕庶女。③因幡守藤致見女、小一条皇后女房

〔彰〕小一条院皇后宮女房、因幡守藤致見女

〔注〕〔尊〕に「因幡権守藤致貞女 小一条皇后宮女房。号山田中務」とある。

〔作〕の「致見女」は「致貞女」の誤か。

四条宰相 一首(95)

〔作〕庶女。③四条中宮女房

〔色〕明祐法師(妹)、四条中納言女房

四条中宮(四條太皇太后宮藤原) 一首(289)

〔作〕女院。③廉義公女、母代明親王女

〔彰〕廉義公女、諱遵子

〔色〕三條関白殿下廉義公御女、母中務卿代明親王御女

四條太皇太后宮→四條中宮「し」

四條大納言→公任「こ」

師經(藤原) 延喜八908 一首(1049) 治暦二1066

〔作〕散二三位。③右少弁登明男

〔注〕〔尊〕「左馬頭登朝男、大藏卿従三位母參議安親女」とある。

師賢(源) 天慶九946、五首(323) 326 636 永保元1081

〔作〕四位。②左中弁 ③參議資通男、承暦五卒

〔彰〕參議資通男、母下野守政隆母、伊与守「頼光女、」左中弁正四位下

〔色〕左中弁源師賢、參議資通卿息

〔注〕〔広〕「藏人頭左中弁、正四下、資通卿男、母伊与守頼光女」。〔陽〕「左中弁正四位下、參議従二位資通卿男母伊与守頼光女」。〔尊〕に「号藤津守」とある。

師光(源) 一首(895)

〔作〕五位。②信濃守 ③美濃守頼国男、至康和二年

〔注〕生没未詳。〔尊〕「源頼国男。母同頼綱(尾張守仲清女)。従五下信乃相模守。本名国仲、国保」。

師実(関白前左大臣) 長久三1042、一首 康和一一1011

〔注〕

(329)

〔作〕大臣。②太政大臣 ③師実、宇治男

〔彰〕師実、宇治殿三男

〔色〕京極関白殿下〔太政大臣〕師実、宇

治殿御息

〔注〕〔尊〕「宇治関白頼通男。母因幡守

種成女。贈從二位祇子。」

師通〔内大臣・藤原〕康平五1062、
康和元1099 二首

(13230)

〔作〕大臣。後二条関白 ②内大臣 ③師

通、京極男

〔彰〕後二条関白殿

〔注〕〔尊〕「関白師実男、母右大臣師房

女。麗子。内大臣。」

師房女〔麗子・土御右大臣女・藤原〕 一首

(776)

〔作〕准后。②從一位

〔彰〕通房大將室母、御堂女

〔注〕〔尊〕「土御門右大臣師房女。号京

極北政所。京極入道関白室。從一位。

麗子。」

紫式部〔藤原〕 四首(1010433)

〔作〕庶女。③越後守藤為時女、上東門院

女房

〔彰〕鷹司殿女房、越後守「橘為時女、母

常陸介」藤原為信女也

〔色〕越前守為時女、一条院御時作源氏物

語中紫卷、仍号紫式部、從一位倫子
家女房

〔注〕〔太〕「越後守為時女。〔陽〕「從

一位倫子家女房、越後守為時女、母

常警介藤原為信女、作源氏物語中紫

卷仍号紫」とある。〔中山〕「越

後守為時女名紫式部。天元元九七

八

「長和三一〇頃か。兄に惟規、女に

大式三位がいる。

資業〔日野〕永延元1987、
延久二1070 四首(4334393)

〔作〕散二三位。②三位民部卿大輔 ③参

議有国男、永承六年六月十六日出家

〔彰〕三位参議、從二「有国男

〔色〕式部大輔伊与守藤原資業、参議從三

位有国御息

〔注〕〔尊〕流「藤有国男。從三位式部

大輔。文章博士。母播磨守橘仲遠女。

号日野三位。永承六、二、十五出家。

法名素舜、延久二、九、二四薨 八十三

(八一)」

資綱〔源〕延喜二1920、
永保二1082 三首(3353352)

〔作〕中納言。③中納言親基男

〔彰〕入道頭基卿男

〔注〕〔尊〕「正二位中納言。藤頭基男。

正二位中納言。母藤実成女。永保二、

正、一出家。同二日薨 六十二才。」

資成〔橘〕応徳三1086 出家 一首(187)

〔作〕五位。②シケハ右傍注 ③美濃守

義通男、「(為義孫至応徳三年出家)

〔彰〕大和守從五下、「義通三男」母同為

仲云々

〔注〕〔尊〕「藏筑前守正四下義通男。大

和守從五上後拾作者。」兄に陸奥守

為仲がいる。

資仲〔藤原〕治安元1021、
寛治元1087 一首(1050)

〔作〕中納言。②前 ③大納言資平男

〔注〕〔尊〕流「大納言藤資平男。母春

宮亮藤知草女。権中納言。応徳元四

四出、家六十四。寛治元、十一、十

二薨七十。」

資通〔源〕寛弘一1004、
寛平三1060 二首(23375)

〔作〕参議。③從三位济政男

〔彰〕前大式济政男、「政成男イ

〔注〕〔尊〕字多「從四下〔略系図は正四
下・更級日記
源氏

勅物正 济政男。母頼光朝臣女。参

議從二位。康平三、八、廿三薨 六十

六才。〔公〕「五十六才」とする。

時綱〔源〕 一首(32)

〔作〕五位。②肥後守 ③肥後権守信忠男

重文孫、至永保三年

〔彰〕前肥後守、從五上肥後権守「信忠

男、母内守頼信女

〔注〕〔尊〕光孝「肥後守從五上信忠男。加賀守重文孫。肥後守從五上。」

時文(紀) 二首(586, 1086)

〔作〕五位。②大膳大夫内藏助

〔彰〕内藏助從五上、木工権頭、貫之男

〔色〕内藏助紀時文、貫之息

〔注〕〔尊〕「紀貫之男。能書。歌人。從五上。内藏助、母藤滋望女。後撰和歌集撰者五人之内。」

時房(藤原) 一首(1179)

〔作〕五位。②皇后宮権大進 ③上野介成経男

〔注〕〔尊〕魚名「上野介少納言成経男。從五上皇后宮大進」

式命命婦(藤原) 二首(561, 967)

〔作〕庶女。③筑前守信尹女、後冷泉院女房

〔彰〕後朱雀院乳母、筑後権守藤信尹女

〔作〕大納言。②大 ③中納言公成男

〔彰〕按察使中納言公成男

〔色〕按察使大納言藤原実季卿 别当中納言公成卿息

〔注〕〔尊〕「權中納言公成男。正二位大納言、号後閑院贈太政大臣。」

〔注〕〔尊〕「權中納言公成男。正二位大納言、号後閑院贈太政大臣。」

実源 万寿六1024、一首(613)

〔作〕律師。②山

〔色〕肥後國人

〔注〕〔公〕「寛治五年同日任。法師仁源。同行幸賞也。御社権別当今度始之(六十八)。」

〔作〕四位。②藏人頭前紀伊守 ③粟田閑白男、天喜六年七月廿九卒

〔彰〕式部大輔藤原実綱 式部大輔資業息

〔注〕〔尊〕公孫「式部大輔資業男。備前守式部大輔。哥人。母備後守師長女永保二、三、廿三卒 七十一才。」

〔作〕參議。②大式 ③從三位資業男、寛治三年於配、出家

〔彰〕參議資業卿二男

〔注〕〔陽〕(大式実政)資業二男。兄に実綱がいる。

〔作〕僧都。

〔彰〕延曆寺

〔注〕〔僧〕「万寿四年によると、実誓は院源僧正入室。同日任。天台宗。延曆寺。院源僧都。左京人。」とある。没年に關しては、万寿四年条

実政(藤原) 長和11013、二首(95, 117)

〔作〕永保二、三、廿三卒 七十一才。

〔彰〕式部大輔藤原実綱 式部大輔資業息

〔注〕〔尊〕公孫「式部大輔資業男。備前守式部大輔。哥人。母備後守師長女永保二、三、廿三卒 七十一才。」

〔作〕參議。②大式 ③從三位資業男、寛治三年於配、出家

〔彰〕參議資業卿二男

〔注〕〔陽〕(大式実政)資業二男。兄に実綱がいる。

〔作〕僧都。

〔彰〕延曆寺

〔注〕〔僧〕「万寿四年によると、実誓は院源僧正入室。同日任。天台宗。延曆寺。院源僧都。左京人。」とある。没年に關しては、万寿四年条

〔作〕永保二、三、廿三卒 七十一才。

〔彰〕式部大輔藤原実綱 式部大輔資業息

〔注〕〔尊〕公孫「式部大輔資業男。備前守式部大輔。哥人。母備後守師長女永保二、三、廿三卒 七十一才。」

に注して七月七日入滅五十六とある。

実方(藤原) 長徳四998存生 四首(564, 566, 570, 571)

〔作〕四位。①右兵衛督、藤忠君拾一

〔彰〕左中将陸奥守、侍従貞時男、小一条左大臣孫、長徳四十二月卒

〔注〕〔中仙〕「左大臣師尹公孫、侍従貞時男、母左大臣雅信公女。」〔尊〕藤原「侍従定時男。陸奥守。右近中將。母左大臣源雅信公女。長徳四、十一、十三於任所薨。哥人。淑父濟時の養子となる。」

〔作〕定時男

〔彰〕陸奥守正四下、小一条左大臣孫、侍従貞時男

〔注〕〔中仙〕「左大臣師尹公孫、侍従貞時男、母左大臣雅信公女。」〔尊〕藤原「侍従定時男。陸奥守。右近中將。母左大臣源雅信公女。長徳四、十一、十三於任所薨。哥人。淑父濟時の養子となる。」

号円通大師。寛和二九八出家。

周防内侍(平) 四首(562頁889)

〔作〕庶女。③周防守棟仲女、白川院女房
〔彰〕当今女房仲子、周防守棟仲女、号小馬内侍

〔色〕周防守平棟仲女、後朱雀院女房

〔注〕棟仲女が「小馬内侍」と呼ばれた事實はない。『尊卑分脈』。「小馬内侍は『家集』参照。『小馬内侍は『栄花物語』」着るはわびしと歎く女房」巻「長元九に章子内親王の侍女として「小馬の命婦」の名が見え、これが「朝野群載」巻五所収永承二年十一月五日付「内侍所月奏」に見える「小馬内侍從四位下」に当るらしい。〔彰〕の「号小馬内侍」は「号周防内侍」の誤りか。あるいは衍文か。

重之(源) 十四首(168頁219、447頁597、685頁823、977、1062、1117、1129、1153)

〔作〕五位。②左馬助 ③散位兼信男、至貞元元年

〔彰〕左馬頭参議兼忠三男

〔色〕带刀先生源重之、從五位下兼信息、参議兼忠甥(清和天皇曾孫)

〔注〕実父は〔作〕〔色〕に記すように源兼信だが、〔歌仙〕に「参議兼忠

三男、実者從五位下兼信男、哥人卅六人哥伝内。相模権守從五上。左馬助。带刀冷泉院坊」とあることからおじに当る兼忠の猶子となつたらしい。

重如(山口)一首(1169)

〔作〕六位。③阿内国人

〔色〕河内国人、号河内重如。

〔注〕〔尊〕魚名「左衛門尉重種男、法名重頼。左衛尉。從五下。出家重如。」

出雲(前中出雲・藤原)一首(561)

〔作〕庶女。②後一条 ③出雲守成親女
〔彰〕後一条中宮女房、出雲守藤成親女
〔注〕561は故中宮威子の死を嘆き、伊賀少將の許に送つた哀傷歌詞であるから出雲が後一条院中宮威子の女房であつたことは明らかである。『栄花物語』第三十二巻「るはわびしとなげく女。房」『今鏡』・「星合」

出羽弁(平) 五首(130頁593、1102)

〔作〕庶女。③前加賀守平季信女

〔彰〕二条院女房、前出羽守從五下平

〔色〕前出羽守平季信女、同院(三条院)女房

〔注〕生没未詳。「栄花物語」続編の著者と擬せらる。永承五年六月五日庚申祐子内親王家歌合に出羽弁の名が見

俊綱(橘) 長元元年1028、四首(428頁1147)

〔作〕四位。②修理大夫 ③讚岐守俊遠男
〔彰〕修理大夫、正四位上、宇治御子云々、に讚岐守俊遠男

〔色〕修理大夫橘俊綱、讚岐守橘俊遠息、実宇治殿御子

〔注〕〔大〕「修理大夫正四上」。〔陽〕「修理大夫正四位上。幡磨守橘俊遠男」。〔尊〕「從四下讚岐守俊遠男。正四上修理大夫。」

俊賢室(左衛門督北方・藤原)一首(1046)

〔作〕庶女。②左衛門督北方 ③宇治関白女

俊宗(橘) 永保三1083卒 一首(982)

〔作〕五位。②太皇太后宮少進 ③備後守俊経男、(俊遠孫至永保三年八月十二日卒)

〔彰〕備前守正四下、小一条院三男
〔注〕〔尊〕氏「肥後守俊経男。大宮少進從五下、後拾作者。女に侍賢門院安芸がいる。」

俊房(源) 承平五1953、一首(1179)

〔作〕大臣。堀河左大臣 ③俊房、土御門右大臣男

〔注〕没年に関しては〔公〕「保安」に「十年」

一月十二日薨」とある。

順(源) 延喜十八(911)、永観一(983) 三首(4459101)

〔作〕五位。②能登守 ③左馬少允拳男、至天元三年

〔彰〕能登守、「左馬少允拳男」

〔色〕能登守源順或云加賀守左馬允拳息

〔注〕〔仙〕「左馬允拳二男」。〔尊〕「左馬助男。才人。哥人。従五上。和泉守。乃能守。永観元卒七十三」。〔梨壺の五人〕の一人。

小一条(諱敦明) 永祿五(994)、永承六(1051) 一首(919)

〔作〕帝王。②諱敦明 ③三条院後一条院御時春宮

〔色〕小一条院春宮院号三条院御子、母后左大

将濟時女(臧子) 三首(2405899)

〔作〕庶女。③散位中原経相女、三条院女房三条小左近同人

小侍従命婦(藤原) 二首(54546)

〔作〕庶女。③加賀守正光女、入道二品宮女房

〔彰〕入左京宮女房、加賀守「藤正光女」

小式部(藤原) 二首(864874)

〔作〕庶女。③下野守義忠女、祐子内親王家女房

〔注〕平安朝歌合大成三は〔作〕の下野守

義忠説を疑い、あるいは大和守義忠を可とする。

小式部内侍(橋) 万寿二(1025)没 一首(1002)

〔作〕庶女。③陸奥守橋道貞女、母和泉式部、上東門院女房

〔色〕陸奥守橋道貞女、母和泉式部、上東門院女房

〔注〕万寿二年十一月頃没 『染花物語』。享年二十六・七才か。藤教通との間に僧正静円、公円との間に頼仁阿闍梨生まる。

小大君(清原) 五首(14589010061215)

〔作〕庶女。三条院女藏人左近同人也

〔彰〕清原元輔女、母若狭守女」或説母小野小町云々、三条院儲式時女房」号左近、父母不詳、拾遺」抄、号東宮女藏人左近」即同人也

〔色〕三条院儲御時女藏人、号小左近。三条院儲時女房、号左近

〔注〕〔広〕「三条院儲時女房、号左近父母未詳、〔陽〕三条院儲式時女房号左近父母未詳 或書云三品式部卿重明親王女、母貞時公女。東宮左近、三条院女藏人左近とも称す。東宮位二十五年。三十六才で即位。道長の庄迫により五年で讓位鏡」大。

小馬命婦(藤原) 一首(909)

〔作〕庶女。前撰津守藤棟世女

〔注〕紫式部日記の「小馬」、永承五一(1150)六条齊院祿子内親王歌合の「小馬」、為家朝臣と關係する女を持つ「小馬命婦など小馬命婦は多い。〔尊〕に「左中弁藤棟世女。上東門院女房。号小馬命婦」と注す。清少納言を母とするか集「範永。

小弁(藤原) 十五首(15769119120323746558038758769019961192)

〔作〕庶女。③越前守懷尹女、祐子内親王家女房

〔彰〕祐子内親王女房、越前守藤「懷平女」越前守藤原懷尹女、同(祐子)内親王女房

〔注〕〔尊〕南家武智「越中守令尹女、懷尹の妹に祐子内親王女房、歌人。後拾遺作者」とある。これが小弁だとすると〔作〕とは異なる。

小右近→少将(三条小右近)

小野太政大臣女(西宮左大臣室) 一首(654)

〔作〕庶女。(西宮左大臣室) ③小野宮太政大臣女 母俊賢卿女

少将井尼 二首(8971120)

〔作〕庶女。③長和之比人

〔色〕井提尼、治安比人、後一条院御時

〔注〕大納言橘好古女(橘清子) 説と関白

道隆妻(橘三位清子) 説あり 物語「茶花」

「玉の台」
「山の井の尼」

少将内侍(藤原) 二首(946, 986)

〔作〕庶女。③能登守実方女、白川院女房

〔色〕前能登守藤原実方女、母輔親卿女、白河院女房

〔注〕〔尊〕「右近中将藤実方男。女房。少将内侍。母輔親卿女。」

少輔 二首(397, 505)

〔作〕庶女。③兼房女、母江侍従

〔彰〕左大臣女房、兼房女、母江侍従、「公経為中務少輔時、為妻仍」号少輔

〔色〕左大臣家少輔、前讚岐守藤原兼房女、母江侍従、主殿頭公経、中務少輔時為妻、仍号少輔。

尚忠(藤原) 一首(181)

〔作〕六位。②越後介 ③加賀介吉信男

〔彰〕春宮小進利仁曾孫、「加賀吉信男

〔注〕〔尊〕「加賀守吉信男。哥人後拾遺作者。普宮小進。」

信叔(高階) 一首(413)

〔作〕凡僧。③尾張守高階助盪男 俗名丹後守從四上俊卒

〔色〕丹後入道信叔俗名俊平、丹後守從四位上、前尾張守高階成順息

信叔(源) 承保元1074卒 一首(588)

〔作〕四位。③小一条院御子、寛仁元年十月七日、兼兼磨介承保元8卅卒八十一。

〔彰〕備前守正四下、「小一条院三男

〔注〕〔尊〕「小一条院御子右中将正四下母下野守政隆女世人号、瑠璃女御、承保元6卅卒、号院中将」とある。

上総大輔(高階) 一首(980)

〔作〕庶女。③春宮大進成行男、後一条院中官女房

〔注〕更級日記作者。孝標の継母。孝標は上総へ赴任のとき作者の実母を京に残し、この人を伴って下った。帰京の後、間もなく離別、後一条院女房となり、上総大輔と呼ばれた人。

上総乳母(源) 一首(242)

〔作〕庶女。③越前守源致益女、朱雀院梅壺女御乳母

〔彰〕後朱雀院梅壺女「御乳母、越前守源致書女、前上総守源著信為妻仍号」

上総

〔注〕〔作〕〔彰〕の梅壺女御とは後朱雀天皇の女御藤原生子梅壺を、御所とせられたから梅壺の女御という「更級日記」五六「梅壺の女御」

〔作〕女院。③法成寺関白女、母左大臣雅信女

〔彰〕諱彰子、御堂一女、「後一条後朱雀二代御母

〔色〕御堂関白殿下御女、母左大臣雅信御女(後一条、後朱雀御母)

新左衛門(中原) 三首(246, 297, 308)

〔作〕庶女。③散位中原佐相女

〔彰〕関白家女房、「散位佐相女、元後朱雀院梅壺女御、女房童名良宇太」

上東門院新宰相(藤原) 一首(1071)

〔作〕庶女。③参議広業女、三条院女房

〔色〕参議藤原広業女、三条院女房

〔色〕参議藤原広業女

上東門院中将(藤原) 五首(66, 92, 344, 1041, 1111)

〔作〕庶女。③道雅卿女

〔彰〕道雅卿女

〔色〕道雅三位女、上東門院女房

〔注〕〔広〕「道雅卿女」とあり、〔太〕上東門院中将、道雅女、「陽」

「道雅卿女、母山城守正五位下宜孝女、同院女房号少将尼」。父は左京大夫道雅卿、母は山城守藤原宣孝女「中」

後拾遺入集歌五首中四首が「長樂寺に住み侍りける頃」の詠。

上東門院(藤原) 永延二988、永保元1074 二首(569, 1031)